

## 旅に出かけたくなる本

ちょっと息抜きに「どこか遠くに行きたい…」と思うことはありませんか？今回は思わず旅に出たくなる本をご紹介します。

1冊目は、エムディエヌコーポレーション/発行『新世界でいちばん美しい街，愛らしい村』です。

世界で活躍するカメラマンが撮影した人気シリーズの写真集。本を開いた途端、目に飛び込んでくるのは異国の美しい街並みの数々。あまりの美しさに「実物を見てみたい」という意欲がかき立てられます。カラフルな街やノスタルジー漂う街並み、大自然に囲まれた村など取り上げられている地域の雰囲気は様々で、イギリスのコッツウォルズ地方や白い街として有名なスペインアンダルシア地方のような観光地から、別名「天空の滅びゆく町」という知る人ぞ知る僻地まで掲載されています。童話に出てくるような可愛らしい街並みやファンタジーの舞台になりそうな風景もあり、物語のワンシーンを連想しながら見るのも楽しみ方のひとつです。海外旅行に興味のある方には特におすすめの1冊です。

2冊目は、沢木耕太郎/著『旅の窓』です。

格安の旅費で海外を旅するバックパッカーたちのバイブル『深夜特急』の著者による旅のエッセイ。

「旅を続けていると、ぼんやり眼をやった風景の向こうに、不意に私たちの内部の風景が見えてくることがある。そのとき、私たちは「旅の窓」に出会うことになるのだ。その風景の向こうに自分の心の奥をのぞかせてくれる「旅の窓」に。」というプロローグから始まるこのエッセイは、著者が感じとった「旅の窓」からの気づきについて81篇の小さな物語として綴っています。旅先で作者がシャッターを切った異国の写真をもとにその先の展開を想像したり、率直な感想を述べたり、面白おかしい発想に思わず頬が緩みます。また著者の心の奥に触れるような描写などは思わずこちらがハッとさせられることもあり、全体的にメリハリのある作品になっています。自分も旅人になって「旅の窓」で風景を見てみたいという気にさせられる1冊です。

3冊目は、パウロ・コエリョ/著『アルケミスト』です。

主人公は羊飼いの少年。ある日ピラミッドの近くから宝を発見する夢を見た彼は夢を前兆と捉え、今までの生活を捨てスペインからエジプトへと渡ることになります。ひねりのない真直ぐな文体からは、エジプトの熱い風や夜の澄んだ月明り、ラクダの背に揺られる感覚などを感じることができ、まるで自分も少年と旅をしているような気分を味わうことが出来ます。

前途多難な旅の中で揉まれながらも、ネガティブにならず自分の心の声に従い進んで行く少年の描写は魅力的で何度でも読み返したくなる作品です。

忙しくてなかなか旅行に行く機会が取れないという方も多いかと思われませんが、本で知らない風景を目にしたり旅の物語を読んだりすることでリフレッシュをしてみませんか。また旅行にでかける予定の方は、旅行ガイドや旅行記などのコーナーもありますので、ぜひ図書館の本をご活用ください。